

キャラクター名  
木下 梟

プレイヤー名

シンドローム	パロール		ワークス	UGN支部長A	カヴァー	既務員
	パロール					
オプション			年齢	52	性別	女
覚醒	探求	衝動	吸血	初期侵食率	31	%
出自	有名人	経験	ニュース	邂逅	ネームレス	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0	1	0			1	行動値	7
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	8
精神	4	0	0			4	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:	2		芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
チャリオットバラ	白兵	1r+1		13		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
チャリオットバラ		6		-1	全力移動200m

所持品	
コネ: UGN幹部	
コネ: 警察官	

合計装甲: 6    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
[98] 遺産継承者/レガシー	P	N		
獄門丸	P 友情	N 食傷		
木下牧場	P 庇護	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヘヴィギャロップ	2	2	メジャー	至近	単体	対決	-	
効果: ヴィークルで白兵攻撃可能、判定-(3-Lv) D								
瞬速の刃	5	3	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 判定+(Lv+1) D								
破壊の戦車	3	3	セット	至近	特殊	自動	-	
効果: ラウンド間搭乗、同乗状態者の攻撃力+Lv×2								
空間圧縮	2	2	セット	視界	単体	自動	-	
効果: 戦闘移動、Lv回/1S								
コンセントレイト: パロール	2	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果: C値-Lv								
戦術	3	6	セット	視界	シーン(選択)	自動	-	
効果: 自分以外+LvD								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

愛馬の上で半べそを掻きながら戦局の指示を飛ばすロリババア支部長。肩書としては、競馬杯で優勝を狙えるような競走馬からUGNのエージェントが騎乗する戦馬の育成までを一手に担う木下牧場の経営主であり、有望なチルドレン十数名の育成を引き受ける大規模UGN支部の支部長であり、レジェンドヴィークル級の戦闘力を兼ね備える暴れ馬である「獄門丸」を乗りこなすUGNきっての古参戦闘員……と華やかなものではあるが、その実これらの経歴は全て、木下家お抱えの優秀なスタッフ、互いで互いを高めあられる優秀なチルドレン達(20寄りのハイティーン)、そしてアニマルオーヴァードとしてトップレベルの戦闘力を持つ獄門丸が周りにいてこそのものであり、本当の彼女は自分一人ではほとんど何もできないポンコツなのである。自信過剰で調子に乗りやすい性格なのだが、このことにドジってなにもないところで転んだり、獄門丸の機嫌を損ね頭を丸ごと食べられたりとか全くもって威厳が保てず、いつも涙目を浮かべているのが日常と化している。馬の飼育も事務仕事も戦闘もできないそんな彼女は、彼女を舐めに舐め切っており、コゲにできるだけコゲにしながらも、どこか彼女のことを憎めず、無意識に好いている人と馬に恵まれているといえるだろう。

レネグイドウイルスが拡散した20年前。ウイルスの力を制御したオーヴァードと呼ばれる存在が世界各地に生まれるとともに、ウイルスの力に飲まれてしまったジャームと呼ばれる存在も世界各地で発生した。特に人間ほどの理性を持ち合わせていない動物たちはアニマルエクストラジャームとして特に多く現れた。気まぐれで牧場を訪れた彼女は、木下牧場においてジャーム化した競走馬の最初の犠牲者になりかける。UGNの前身である護人会から命を救われた後、世界の真相を聞かされた彼女は「マンネリ気味だった会社の経営方針に護人会との提携という一石を投じることのなんか社長っぽい!」という理由でアニマルオーヴァードに目覚めた馬の飼育を始めるようになった。その頃は非オーヴァードであった彼女は気まぐれで現場を訪れては度々骨折しかけるといふ日々を繰り返しながらも、なんとか衝動を制御できるだけの精神を持ち合わせたオーヴァードホースの飼育事業も軌道に乗せていった。UGNからの信頼も厚くなり、非オーヴァードながらその人徳と経済力を貫われ支部長に推薦される話が上がった頃、伝説上の神馬の血を引くと名高い「獄門丸」の飼育を依頼された。他の組織を盪回しにされた果てにここにたどり着いた彼は、いま以上にやさぐれていおり、職員の間にも嫌われることもなかった。無理やり手綱をつけようとした木下牧場のオーヴァード職員を半殺しにし、もはや誰の手に負えないという声が上がりがり始めた頃であった。獄門丸の宿舎に彼女が訪れたのは、何があったかわからないが、丸一日が過ぎ去った後、彼女を背に乗せた獄門丸は牧場を飛び出し、一週間後に彼らが返ってくるころには、パロールのシンドロームに覚醒した木下梟の姿があり、その脇には携帯電話を取り上げて彼女をからかいながらも、その脇に立つことを良しとする獄門丸が佇んでいた。

獄門丸との絆で結ばれた彼女の戦闘スタイルは、獄門丸の背中にしがみつくことである。パロールの能力によって落馬しないことに全神経を注ぐことで精いっぱい